

日本人の心

京都、こころここに

vol.50

現代はインターネット社会です。2011年3月11日に日本で起こった大震災とその被害の詳細は、瞬く間に世界中を駆け巡りました。

国境も世代も宗教も超えて届けられた言葉

すると「日本のために祈ろう」というメッセージがインターネット上に飛び交い始めたのです。国境も世代も宗教も超えて、世界中から届けられた「祈り」の言葉。世界では、これまでさまざまな災害や危機がありました。こんな



にも一つの国のために「祈りのリレー」が行われたことはかつてなかったでしょう。



東日本大震災では日本のために、世界中で祈りのリレーが行われた。祈りには大きな力があり、遺伝子学でも最先端の研究分野になりつつある。

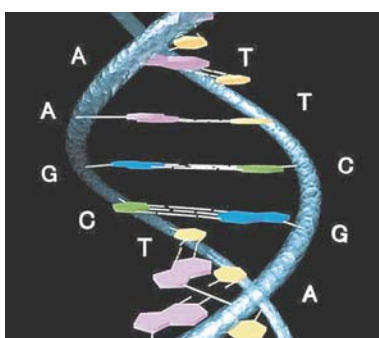
人間は無力だから祈るのではなく、祈りの思いもよらぬ力を求め祈る

震災では、目に見えるものが多く破壊されましたが、同時に目に見えない、いのちの大切さと有り難さ、助け合いの心、などが自分たちの心の中に残っています。

ヒトの場合、約32億文字(塩基配列)が1グラムの二億分の一という極微の空間に整然と書き込まれているのです。単に書き込まれているだけでなく、1分1秒の休みも無く、オンとオフを繰り返しながら働いている営みは、人智を超える偉大な働きです。私はその働きをする主体を「サムシング・グレート」と名付

オンオフの営みは人智を超える偉大な働き

戦後、日本人は物の豊かさ引き換えに大切なものを忘れてきたのではないだろうか。日本人が忘れつつある価値観が今も生き続ける千年の都・京都から温故知新の知恵を発信する。(毎週日曜日に掲載します)



私は生命科学の現場に50年以上おられます。その間、見える大自然の偉大な働きを感じることはありません。遺伝子研究の進展は目覚ましく、幸い私も多くの遺伝子暗号解読に成功することができました。研究に夢になつて取り組んでいるとき、不思議な感慨を持つことがあります。それは「ヒトを含め全ての生物の遺伝子暗号を書き込んだのは誰か」ということです。

「祈り」が治療に及ぼす影響については、賛否分かれていますが、古来より人間が続いてきた「祈り」が最先端の研究分野になりつつあります。人は無力だから祈るのではなく、祈りには思いもよらない力があるから祈るのだと思います。

祈り

～サムシング・グレートとの対話～
筑波大名誉教授
村上 和雄さん



むらかみかずお 1936年、奈良県生まれ。京都大大学院博士課程修了。米国バンダービルト大学助教授、筑波大学教授などを歴任。83年、高血圧の原因酵素・レニンの遺伝子解読に成功した。96年、日本学士院賞受賞。「生命の暗号」「アホは神の望み」など著書多数。

いることに多くの人が気づいたのです。

日本を憂う大自然からのメッセージ

日本人は見えないものへの畏敬の念を、日常の中で持ち続けてきた民族だったはず。その日本人が、目に見える経済効果やシステム、技術といったことばかりに重きを置いた営みを送ってきたうちに起こった今回の大震災。これは、そうした日本を憂う、大自然からの何らかのメッセージだと思えてならないのです。

「祈り」までもが遺伝子のオンとオフに関係すると私は考えています。ちなみに、最近のアメリカでは、医学・医療の分野で、西洋医学以外に東洋医学をはじめ、薬草、漢方薬、鍼灸、瞑想、音楽、信仰などの医療に及ぼす影響の研究が始まっています。祈りもその中に含まれています。「祈り」が治療に及ぼす影響については、賛否分かれていますが、古来より人間が続いてきた「祈り」が最先端の研究分野になりつつあります。人は無力だから祈るのではなく、祈りには思いもよらない力があるから祈るのだと思います。

日本の暦

おとうき 桜桃忌

不惑の歳を迎えることなく、非凡な才能を惜しまれて去る。繊細極まりない美意識の持ち主には、それが望んだ最期だったのでしようか。1948年6月19日、新聞の見出しは「情死」でした。ペンネームが大宰治で、津島修治が本名です。東京都三鷹市の玉川上水で遺体が上がりました。

桜桃忌は太宰の作品「桜桃」から命名されました。入水直前、友人宛てに残したのが伊藤左千夫の短歌です。「池水は濁りにこり藤波の影もつら雨降りしる」。三鷹市・禅林寺の墓前に営む桜桃忌はご逝去64回目。太宰の人氣は衰えず毎年、100人以上のタザイストたちが集まります。



田中 恵厚さん

リレーメッセージ

宝鏡寺では人形展を始めて五十余年になります。日本が高度経済成長期に入り、社会環境が大きく変わりました。子供たちが古き良きお人形に接することが少なくなったことを聞かれた先代門跡が、昭和三十一年の秋より二年二回と秋、宝鏡寺所持のお人形を中心に公開することを決められました。

お人形に限らず、卓越した技術の後継者不足はよく耳にいたしますが寂しいことです。さまざまな伝統文化は長い時間をかけて練られて残ってきたものであり、その力はわれわれに感動や畏敬の念をもたらし、またときとして人々を退廃や争いから遠ざけ、心の安らぎへと導くものではないかと信じております。

ところが近頃では不景気も手伝ってか、奇を衒うもの、安易なものが横行するようになっています。洋の東西を問わず、人々に長く愛されているものに触れることが本質を見極め審美眼を育むことにつながるのではないのでしょうか。グローバル化が進む中、日本人の誇れる審美眼を持ちたいものです。

(次回6月24日のリレーメッセージは、映画監督の河瀬直美さんです)

(日本人の忘れもの)は、京都新聞ホームページ <http://kyonon.jp/kp/kyo-on/page/nw/cv>で観てください

ヒューマン・ドリーム・サポート・カンパニー

成基 SEIKI

成基の詳しい教育サービスの内容については是非ホームページをご覧ください。

www.seiki.co.jp

ホームページでは512種類もの未来の「職業」をご覧いただける「職業なるにはナビ512」や、お子さんの「適職診断」も!!

成基 携帯電話専用サイト

バーコード対応の携帯なら、右記バーコードの撮影で簡単にアクセスができます。ぜひご利用ください。

<http://090.jp/scg/>

〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル時給屋町265-2 SCGビル

お申し込み・お問い合わせは成基カスタマーセンターまで
受付時間(日・祝除く) 10:30~20:00

0120-578380

みんなが幸せでありますように...
そのために頑張れる人を育てたい。

6月5日から7日まで、私たち「成基」の従業員288名は、東日本大震災の被災地に研修に行かせていただきました。おかげさまで50周年を迎えた私たちが、瓦礫処理のお手伝いをしながら、そして福島、石巻、南三陸の皆さんの声に耳を傾けながら、「これからの50年」に向かって決意を新たにしていきました。それは、現在お通いいただいているおよそ1万2000人の塾生お一人おひとりに対して、どこにも真似できない最高の「未来への準備」をご提供することを通じて、この国の未来を創っていくという決意です。15万人にも及ぶ塾生たちや、「みんなの幸せのために頑張れる人」に育ってほしいと願うすべての保護者の皆さまと、しっかりと手を携えて、「私たち「成基」は、これからも子どもたちのために、子どもたちの「未来への準備」を真にお手伝いできる日本一の民間教育機関「成功基地」であり続けます。



いつか大きな役に立ちたい
と思います。今はまっさらな心しか
できないけれど力を付けていこう
がんばります。

右の写真は、昨年夏に塾生有志17名とともに石巻を訪れた際、門脇町の「がんばろう! 石巻」の大幅板前の七夕の笹飾りに吊るされていた短冊の中の一枚です。

これからも
子どもたちのために
50th ANNIVERSARY